日本プライマリ・ケア連合学会大阪府支部
第3回 総会のご案内

謹啓　時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
　日本プライマリ・ケア連合学会 大阪府支部では、一昨年・昨年に引き続き、３回目の総会を開催する運びとなりましたので、ご案内を差し上げます。
今回も総会前の時間を利用したプレ企画として、ポートフォリオに関する研修会「ポートフォリオ検討会～薬剤師のポートフォリオを一緒に検討してみよう」を企画いたしました。
どうぞ多数の方のご参加・ご参画をよろしくお願い申し上げます。
　尚、学会に入られていない方や大阪府以外の方のご参加も、大歓迎いたします。

敬　具

大阪府支部運営委員会 代表　梶山泰男

《大阪府支部 運営委員》

梶山泰男（中央区東医師会）	石井大介（はなぞの生協診療所）	大島民旗（西淀病院）
太田祥彦（太田診療所）	恩田光子（大阪薬科大学）	梶原信之（市立池田病院）
木戸友幸（木戸医院）	坂上祐司（東住吉森本病院）	作　功一（作医院）
鈴木富雄（大阪医大）	高橋直子（近畿大学薬学部）	竹内あずさ（くるみ薬局）
竹中裕昭（竹中医院）	外山　学（益田診療所）	仁科昌久（仁科医院）
西山順滋（関西医大）	三澤美和（大阪医大）	村上慎一郎（市立池田病院）
森村美奈（大阪市大）	山寺慎一（菜の花診療所）	

記

日　時　**3月12日（日）　※ 昼食は付いておりません。**

13：15～14：45　プレ企画「ポートフォリオ検討会」
15：00～18：00　第３回総会
18：30頃～　懇親会

会　場　**大阪市立大学医学部学舎　４階 中講義室**
ＪＲ西日本「天王寺駅」より徒歩約９分、近鉄「阿部野橋駅」より徒歩約９分
地下鉄御堂筋線「天王寺駅」より徒歩約７分、谷町線「天王寺駅」より徒歩約９分
http://www.med.osaka-cu.ac.jp/

参加費　**医師・歯科医師・薬剤師：3,000円**
その他の職種・研修医・学生：1,000円

懇親会　**会場：医学部附属病院 ６階 「レストラン ロイヤル」**
（会費：4,000円程度予定、学生・研修医無料）

次　第　**詳細プログラム裏面**

申込締切　**２月２５日（土）**　問い合わせ先／㈱ミック大阪内
プライマリ・ケア連合学会 大阪府支部
メール：mic-osaka@mub.biglobe.ne.jp

（日本医師会生涯教育研修単位 申請中
日本プライマリ・ケア連合学会 専門医・認定医／認定薬剤師単位 申請中）

主 催：プライマリ・ケア連合学会 大阪府支部

問い合わせ先／大阪市中央区石町2-1-7-515 ㈱ミック大阪内　TEL. 06-6946-0405　FAX. 06-6946-0802
mic-osaka@mub.biglobe.ne.jp

プログラム

13：15～14：45

【プレ企画：ポートフォリオ検討会】

- **薬剤師のポートフォリオを一緒に検討してみよう**

野口　愛（西淀病院地域総合内科）
鈴木昇平（たいしょう生協診療所）

15：00～18：00

【第 3 回総会】

- **挨　拶**　大島久明（大島内科医院）
- **症例提示とミニレクチャー**　鈴木富雄（大阪医科大学）
- **近畿地方会大阪府発表者プレイバック口演**　座　長：竹中裕昭（浪速区　竹中医院）

「Pepperの対話力を活かした小学生向け
認知症高齢者支援力を育成する教材の開発」

桝田 聖子（関西医療大学保健看護部）

- **今後の大阪府支部の運営について**　梶山泰男
- **パネルディスカッション**

「抗菌薬の適正使用」　司　会：森村美奈・梶原信之

パネリスト：

1．プライマリ・ケアでの抗菌薬処方の実態
梶原 信之（市立池田病院）

2．抗菌薬の適正使用 ～臨床効果を最大限に引き出すために～
並川 浩己（大阪市立大学医学部附属病院）

3．在宅医療における抗菌薬使用
山寺 慎一（生野区　菜の花診療所）

4．プライマリ・ケア・クリニックでの抗菌薬使用
谷口　恭（北区　太融寺町谷口医院）

5．薬局薬剤師から見た抗菌薬使用の問題点
竹内あずさ（ベガファーマ株式会社くるみ薬局）

18：30頃～

【 懇 親 会 】

会場：医学部附属病院 6 階 「レストラン ロイヤル」

内容のご紹介

○プレ企画：ポートフォリオ検討会

『薬剤師のポートフォリオを一緒に検討してみよう』

自己の省察と成長に有用とされているポートフォリオ、今回は実際に薬剤師さんが作成したポートフォリオを検討し、よりよいものに仕上げる作業を参加者みんなで取り組んでみましょう。初心者の方も歓迎です。

○症例提示とミニレクチャー

プライマリ・ケア／家庭医療／総合診療的アプローチが奏功し、患者さんにとって有益であった事例について勉強します。診療所の（ベテラン）医師にとっては、日常診療の役に立ち、若手医師や学生、病院での指導医にとっては、そのようなアプローチの重要性を今一度認識する機会としていただければ幸いです。

○近畿地方会大阪府発表者プレイバック口演

過去２回の総会でたいへん好評でしたので、今回も、近畿地方会（11/27 和歌山）における御発表の中から、「たいへんよかったのでぜひ、より多くの人に聞いてほしい」「是非聞きたかったが、聞くことができなかったので再演してほしい」というリクエストを受け、もう一度御発表いただく場を設けました。

今回は、Pepperというヒューマノイドロボットを用いて対話型で、認知症高齢者と接することが少ない小学生に「年をとること」および認知症に対する理解を深めてもらい、認知症高齢者を支え、安心して暮らしてもらえる地域づくりにつなげようという桝田聖子先生の試みです。

『Pepperの対話力を活かした小学生向け認知症高齢者支援力を育成する教材の開発』

関西医療大学 保健看護部　桝田 聖子先生

【目的】我が国では、少子高齢社会の到来により、今後認知症高齢者の増加が見込まれ、地域における認知症高齢者への対応は喫緊の課題である。一方、我が国の1世帯あたりの世帯人員は2.46人で、単独世帯や核家族世帯の増加に伴い、若年世代と高齢者の接する機会が減少し、認知症高齢者への接し方がわからないと考える。そこで今回、小学生の頃から認知症高齢者を正しく理解し、差別や偏見なく対応できる力（支援力）を育成するために、Pepperの対話力を活かした教材を開発する。

【方法】対象は、H県K市Ａ区の小学生とした。教材の内容は、認知症高齢者が安心して暮らせる地域づくりを行う岡本バラ公園ネットワークメンバーや東灘区薬剤師と検討を重ねた。また、Pepperを小学生の興味関心および学習意欲を高め、実践的な学びができる教材とするため、Pepperの実用性を研究している共同研究者と検討を行った。

【結果】高齢者と接する機会が少ない小学生がまず、「年をとることの理解」を深めた後、「認知症の理解」を肯定的に促す内容とした。認知症高齢者支援力の育成に関しては、コミュニケーションロボットの強みを活かし、Pepperと対話型で認知症高齢者の症状や対応を学べるようなプログラムとした。

【考察】小学生の頃から認知症高齢者支援力を育成することで、認知症高齢者を支える新しい形の地域づくりが期待できると考える。

○今後の大阪府支部の運営について

今後の大阪府支部の運営に際し、広く皆様からご意見を伺いながら進めていきたいと存じます。
この機会に是非、皆様のご意見をお聞かせください。

○パネルディスカッション

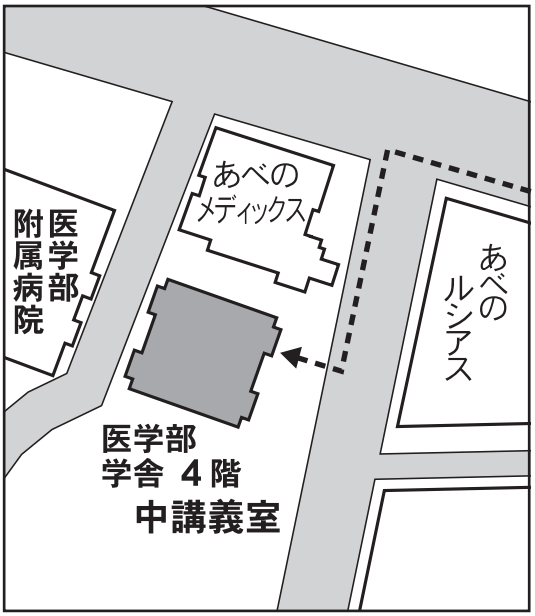
『抗菌薬の適正使用』

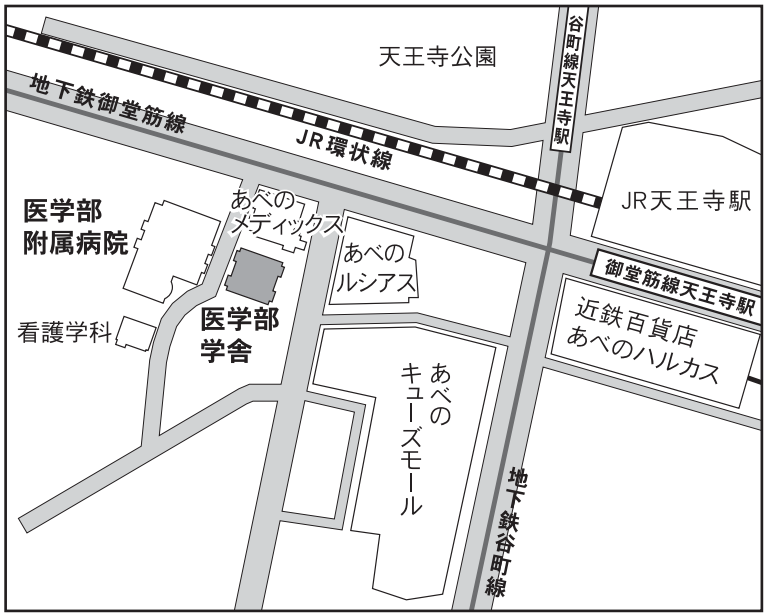
耐性菌の増加が世界的な問題となり、英国グループの試算によれば 2050年には耐性菌による死亡が1000万人にも達するとも言われています。

Choosing Wisely でも抗菌薬の適正使用が訴えられ、日本でも薬剤耐性対策アクションプランが発表されています。一方でプライマリ・ケアの現場では、在宅医療ならではの制約や薬剤師サイドからの介入の限界など理想論では片付かない問題があるのも事実です。

抗菌薬の適正使用について皆さんと議論したいと企画しました。

大阪市立大学医学部学舎略図





大阪市立大学医学部学舎

〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
電話　06-6645-3797
（大阪市立大学医学部総合医学教育　森村）

◆ＪＲ西日本「天王寺駅」より徒歩約９分
◆地下鉄御堂筋線「天王寺駅」より徒歩約７分
◆地下鉄谷町線「天王寺駅」より徒歩約９分
◆近鉄「阿部野橋駅」より徒歩約９分

大阪府支部第２回総会報告（平成28年3月13日）

第２回総会は駅から３分と便利な関西医大枚方病院講堂が提供され、運営委員の面々の工夫で企画・運営された。種々の会員の活動を、多くに会員に見てもらうため、メインの企画は今回も多職種連携にした。

資格認定や更新に際して求められるポートフォリオの作成指導は、研修医に関しては発表会が定例化されつつあるが、他の年代や職種にはまだ敷居が高い。ＰＣ認定薬剤師からの希望があって大島理事による講義と作成指導を総会前の時間枠をとって新しく企画した。多くの参加が得られ、更新の世代からも歓迎されたほか、感激した事例の記録など平素から「生ポートフォリオ」とも言うべき記録を積み重ねることは、すべての会員にとっても役立つとの指摘もあった。

症例提示とミニレクチュアは大阪医大鈴木教授が担当、猫ひっかき病が取り上げられた。犬猫が室内で飼われるようになってペット関連病も様変わりしてきた。安易な穿刺をしないなどワンポイントアドバイスもあった。

府の会員による学会発表のプレイバック口演は竹中委員を中心に選定され、ユマニチュードによる病棟運営、退院への多職種連携、関西学生部会の活動が取り上げられた。

メインのパネルは「『退院させられた』も『家に帰してもらえない』もなくしたい？がん患者の退院支援と在宅医療導入」が取り上げられた（西山、外山の両委員が担当）。パネラーは多くの運営委員によって推薦された各地で熱意ある活動を続けてこられた方々で、迫力ある発表であった。もう少し討論できれば、との意見も見られた。総会の討論時間を補うように、懇親会の意見交換が役立った。

疾病構造の変化も厚生労働省の方針もあって、各地区で多職種連携の構築が求められている。先達たちの経験を集め、体系化して各地の医療者、介護者に示すとともに、その地区で先進的に働くことが学会員に求められている。当然地区の医師会はじめ各師会内での働きが期待される。これが学会支部設立の意義でもあり、地区医師会との関連でもあろう。

日本プライマリ・ケア連合学会 近畿ブロック支部 ニュースレターNo.15（2016.6）より
梶山 泰男　（大阪市中央区東医師会）